

Talk-s

Craftsmanship
Interview Contents
Sakai printing Creative Works

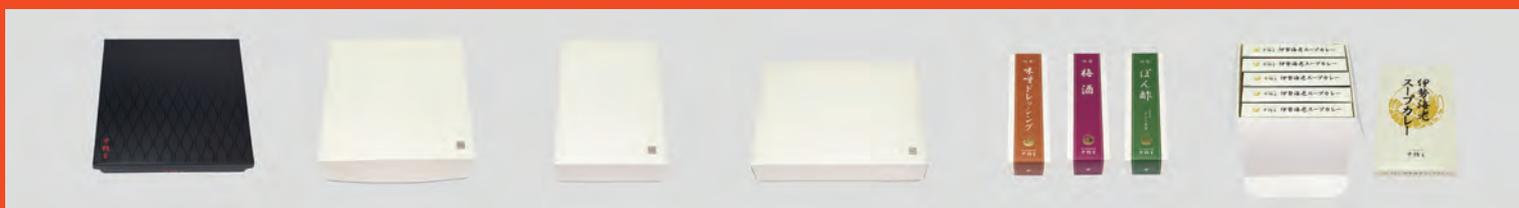
株式会社 中納言
営業部 執行役員
澤田 毅

坂井印刷所
代表取締役 奥 敦雄
営業本部 三輪 宗文

ブランディングのはなし。
紙製お弁当箱からスタートする
中納言のブランディング戦略。

進行 企画制作室 船越 大祐

(順不同 敬称略)



まず、コストにびっくりです。

当社に発注いただいているパッケージについてお話をお聞かせいただければと思います。

一まず、坂井印刷所にご発注いただいた経緯をお聞かせください。

お弁当は10年前にスタート。箱は、既製品で対応していましたが、品がないものが多かったことを覚えています。既製品カタログで選ぶとあんまりいいのがない... っってなっていました。社長からオーダーメイドの方がいいんじゃないかという話が出て、社長の知り合いである坂井印刷所に聞いてみたらどうかということでスタートしました。

最初は、紙の質感とかどうなの？っていうのもあったのですが、デザインも同時に提案いただいた中で、ロゴが映えてシンプルでありながらも高級感があるデザインがとても良かったので、現在のものに決まっていって感じでした。(上記写真、左から1番目のお弁当箱)

正直、今までは食品包材資材商社から仕入れており、直接印刷会社との取引はなかった状態でしたが、直接取引することでコストも下がって、びっくりしています。

既製品で買ったものより、オリジナルで作ったものの方が安価だったので... 安くできる仕様で考えていただいたと思うのですが、本当にびっくりしました。



不変ですね。変えるつもりは全くないですね。

一最初は品質も安定せず、ご迷惑をおかけしました。

箱の折り返しの部分の糊の接着が不十分なものがありましたが改善してもらったのと、折ぐせをつける人もつけたりしましたね。それでも、コストメリットはありましたので感謝しています。

一ロングセラーとなり、リピート注文もいただいておりますが、理由をお聞かせください。

黒字に赤のロゴが入っているシンプルなものですが、お客様のイメージ、商品の価格帯、商品のクオリティなどと坂井さんで提案してもらったデザインがばっちり合った感じですよ。うちの社長の方からは、そろそろデザイン変えようかと言われたりするんですが、**変える理由がないですよ。それぐらいみなさんに受け入れられてます。**

本当にお願いしてよかったなと思います。

裏面につづく▶





とにかくすごいスピード感。

デザイン（設計も）して、生産してくれる。これも今までとは違うスピード感でした。さらにセンスがいい！中身には自信がありますから、黒いお弁当箱から出てくるインパクトは抜群です。このデザインはほんとに変える必要がない。既製品にはない特別感があります。営業さんのスピード感もすごく、びっくりしましたね。しびれました。提案が早いというのは御社の強みですね。

「ちょっとほめすぎです（笑） お弁当自体はどこで使われることが多いのでしょうか？ 製菓会社さんの差し入れ弁当が多いですね。セミナーや勉強会、研修などで使われることが多く、評判になってます。口コミで広まった感じで、病院の先生方の評判も良く。リピーターも多いので、デザインも中身も変えない方針です。中納言のお弁当といえばこれ！ぐらいの定番にしていく感じです。」

ここからブランドを強く意識した戦略が始まりました。

そのほかの物販商品に関しても、バラバラの印刷会社さんで提案されたものを行き当たりばったりで採用していたものが多い状態でした。であれば、しっかりとブランドを確立すべきでしょうという流れから商品も全部坂井さんをお願いしたら？と社長からも言われたこともあり、現在のシリーズがスタートしました。

坂井さんでデザインしてもらったベースが新しいお店との相性も良く、うちの会社になかった「カラー」をお客さまに伝えることができたのはよかったです。

中納言の新しいブランドのカタチを作っていただいた感じですか。すごいですねー（笑）



「ありがとうございます！現在、物販のパッケージに採用されているのはラフバガスですが最初はたくさん種類の用紙と、カラーの提案をしました。」

そうですね。ほんとに早くサンプルも提案してもらってました。先ほどもお話ししましたが、ヒアリングから提案までのスピードはもちろん、センスが素晴らしい。営業さんの対応もほんとにびっくりしました。送付してくる業者さんも多いですから、持ってきて説明いただけるのはイメージがしやすくていいですね。

こういうのは好みになるかもしれませんが、エンボスのロゴを見たときは、うちの会社もここまでできるブランドになったんだなーと実感しました。

輸送ストレスなんかもあり、社内の物流部門では取り扱いにくさもありますが、雑に扱えないというブランドを大切にするという社員のモチベーションまで変えてしまいましたから。この変化は大きいと思います。

坂井印刷所さんに頼んでいなかったら、ここまでになっていなかったのでは？

今後の展開は、夢が膨らみます。

どんどん進めて、中納言のアンテナショップみたいなものができるのを楽しんでいますよね。もっと商品数増やしていきたいと思っています。

次はデザートがいいかもと思っています。いろいろなものができる時代ですから。アイデアはたくさんあります。現在もせんべいなどの商品もありますし、少し甘いものを攻めたいですね。お店でも使えるようなこともできますし。

中納言って、みんなに使ってもらえるようなレストランだと思っているので、こども向けの商品が普通に置いてあるようなものになっていいと考えています。そういえば、イラストの入ったパッケージも現在進行中ですが、そちらはもう少しお待ち下さい。早く進めたいですねー。

「たくさんお話いただきありがとうございました。」

いろいろ考えて眠れなかったんですよー（笑）

今回は、パッケージと SNS のお話です。お楽しみに。



対談を終えて。

自社企画のインタビューメディアも2回目となりました。終始始めていただくという、不思議な会となりましたが本当にありがたいお言葉ばかりで恐縮です。

お弁当箱という一つのパッケージをきっかけに、ブランディングにつなげるお手伝いができたのであれば、ほんとにうれしい限りです。デザインや形状だけでなく、印刷仕様についても深く提案できるのは弊社の強みでもあります。営業/企画/製造/物流とワンストップサービスを提供する坂井印刷所ならではの強みです。

今後もさらにクライアントととのモノづくりの現場をお届けします。



前回のWEB版は
こちらのQRコードから。

次回もお楽しみに。